

# まよくと福祉倶楽部だより

## 2014年 秋号 2

### 国際福祉機器展 - 東京に参加しました

10月1日、2日の両日、福祉倶楽部のサービス提供責任者、管理者の3名で東京都江東区有明にある「ビックサイト」で開催された第41回国際福祉機器展に参加をしました。

この展示会には国内はもとより海外から多くの参加がある日本でもっとも大きな展示会です。

今年の展示会も三日間の会期にのべ 127,651人の参加で盛況でした。わたしたちがこの展示会に参加をするのは三つの目的がありました。

一つは日ごろ在宅で生活をされている利用者の方の生活をより向上させ、かつ介護にあたる家族、介護労働者の負担を軽減する優れた機器を見つけることです。

二つ目に、現に使用している福祉機器をよりよい物へと改善するために製造元のメーカーの社員さんと忌憚のない意見交換を行うことです。これまでもこういう取り組みの中でさまざまな機器が改良されています。

三つ目には、この会場では多くの交流が生まれます。この場所で作り出した人間関係で福祉倶楽部の発展につなげられる技術と、思想の蓄積が可能になります。



今回の参加ではいずれの目的も達成することができました。参加時、わたしたちは一人暮らしの要介護5の利用者さんを支えていくために様々な方向で検討を重ねていました。会場を散策する中で新しい食材や移乗用具を見つけて「これ、〇〇さん使えないかなあ？」「立てる力が戻ってきたのでリフトはやめて、この道具で安全に移動ができそう！」と処遇の見直しの議論が会場でも行われました。

今でも大きな展示会ではあります。

ですが、年をおって出展企業は減少しているように思います。

その背景には介護保険の機能が年々弱まる中で、あたらしい物を作っても「売れない」(大阪の中堅入浴用具製造会社社長談)状況下、新製品の開発が減少していること、現場が疲弊し、新しい知識を吸収することが困難になっていることが考えられます。

出展企業の方は「今年の展示会は市民の方が多く援助職の参加が少ないように思う」とも述べられました。

出展規模は低下しているものの、わたしたちにとっては利用者さんの日常を思い出し福祉機器を生活に重ね合わせながらあらたな展開を探る貴重な体験ができました

